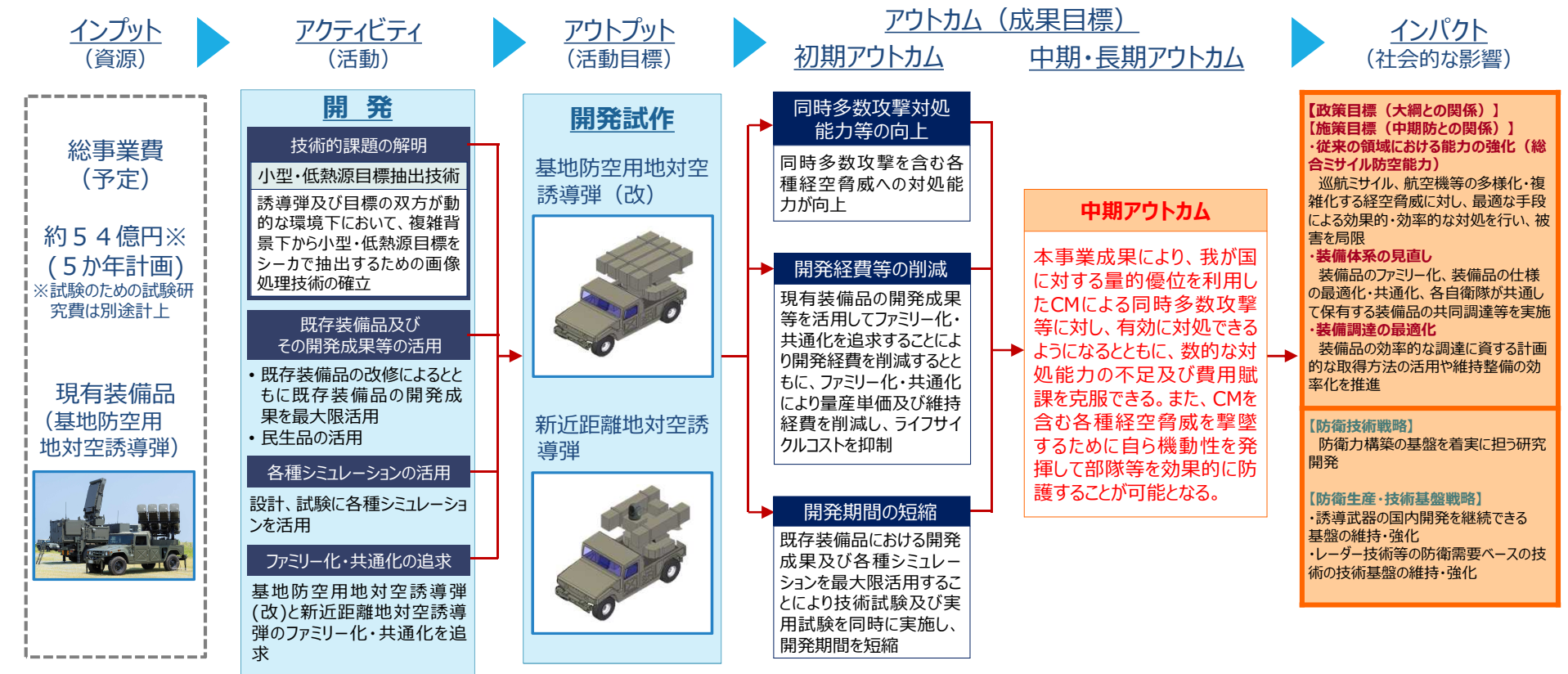


基地防空用地対空誘導弾（改）及び新近距離地対空誘導弾

敵の巡航ミサイルによる我が国への同時多数攻撃に有効に対処するため、既存の基地防空用地対空誘導弾の改善型として基地防空用地対空誘導弾（改）を開発する。また、島嶼等防衛における各種経空脅威を撃墜するとともに、本土における重要防護施設に飛来する各種経空脅威を撃墜し、自ら機動性を発揮して部隊等に直接対空火網を構成して部隊等の安全を確保するため、93式近距離地対空誘導弾の後継として、低高度で飛来する巡航ミサイルへの対処能力を持った新近距離地対空誘導弾を開発する。

現状・課題

我が国に対する従来の巡航ミサイル（以下「CM」という。）及び航空機による攻撃の他、周辺国の軍備拡張に伴う量的優位を利用したCMによる同時多数攻撃の可能性があり、現有基地防空用地対空誘導弾では、これらの脅威に対し有効に対処できない。また、現有の93式近距離地対空誘導弾では、戦闘爆撃機、攻撃ヘリコプターや大型の無人機等には対応可能であるものの、中型無人機、超低空CMなどの昨今の多様な経空脅威には有効に対処できない。



＜開発実施線表＞

年度	4	5	6	7	8
実施内容	本事業（開発試作）			技術試験	
				実用試験	

総合評価

本事業を実施することにより、誘導弾が予想命中点に飛しようする環境下において、複雑背景から小型・低熱源目標を抽出するための画像処理技術の確立が見込まれる。これらの成果については、試作及び技術試験により検証し、これらの検証結果が得られた場合には、我が国の技術力の強化に資することが見込まれる。これらは自衛隊のニーズに合致した高度な防衛装備品を創製するため重要な成果であり、最終的に政策目標である我が国自身の防衛体制の強化につながるものであることから、本事業に着手することは妥当であると判断する。